

会員の皆様の近況報告

次の内容を報告します。

- * 東日本大震災に関するもの
- * ちさと会を開いて
- * 延原武春さんの近況
- * 垂水神社隣接地にマンション計画
- * 28回生 馬場（河井）久恵さんの「いつまでも親子」
- * 西田慶二先生の叙勲他

東日本大震災に関するもの

東北地方在住の会員は九回生淺沼操さん（仙台市太田区、安部さんの姉上）、十一回生吉城栄子さん（釜石市、安部さんの姉上）、十四回生安部謙二さん（仙台市太白区）、二十四回生加藤孝さんの4人がおられますが、安部さん、加藤さんとは一週間以内に電話がつながりご家族無事でした。安部さん

者として一心不乱の日々を過ごさざるを得ない状況だったそうです。さらに、会社でよく知るお仲間をお一人この震災で亡くされました。

二十七回生林裕三さんは伊勢にお住まいですが、この日は前日より大田区産業プラザで産業機械試作展示会があり上京されていて被災されました。やつとの思いで会場のある蒲田から品川に着いたものの、その日の新幹線最終には間に合わず、品川駅東口奥にある東京海洋大学が帰宅難民のために解放されており、ここで一夜を過ごされたそうです。翌朝5時に起き、品川から始発の「のぞみ」で無事に午前十時には伊勢のご自宅に帰れたそうです。お勤めをされている方は当然として、たまたまこの日、都心に出ておられた方で被災された方は多く、色々なところで一夜を過ごされたようです。でも翌日、十時に帰宅できた方はほとんどおられず、夕方が多かつたと聞いております。林さんは西に移動、それも遠く離れた伊勢だったことが幸いだったようです。

二十七回生熊谷克彦さんは房総半島のゴルフ場で被災。7時間かけて帰宅。（後で知ったのですが熊谷さんも運のいい

より、姉上お二人もご無事と伺いました。ご自宅も家具や器物の転倒・損壊などあるものの倒壊などの被害には遭われておりませんとの報告を受けました。（奥田記）

この他、東北地方に限らず千葉旭地区や習志野地区・浦安地区でも液状化等から上下水道・ガス・電気といったインフラに被害を受け、不自由な生活を送られた仲間、たまたま当日都心に出ていて被災、帰宅難民に遭われた仲間や震災後日、現地に赴きボランティア活動に携われた仲間がおります。ここにその一部を紹介させていただきます。（萩原記）

十七回生友野信善さんは習志野市にお住まいで、ご自宅は無事でしたが、近所では地面の液状化流動化現象で上下水道が使えなくなり、傾いた家も多数あるそうです。

三十九回生増田泰邦さんは勤務先のホンダ栃木研究所の建物が壊れたり、500m×50mの設計室の天井が崩落したり、テストコースのバンクが崩れ、震災より約3ヶ月後の6月6日現在でもまだ立ち入り禁止だったそうです。ご自宅の方はほとんど無傷だったそうですが、ITのインフラ担当

方？ 私の知り合いでゴルフ場より帰宅に14時間かかった方もあります。しかし、熊谷さんの場合はご自宅が浦安市のためインフラがやられ、その中でも特に大変だったのが下水。ガス・電気の仮を含め復旧は早く、上水も給水車による補給があったものの、下水は水が流せないで、風呂・洗濯・食器洗い、そして何よりも大変だったのがトイレだったそうです。

同じく**二十七回生高見信雄さん**も当日は外出中に被災され、その日は友人宅に一泊。そして5月14日・15日、仙台三越時代の友人の紹介で相馬市に見舞い行脚。海岸沿いの被災地に広がる瓦礫の山を目にし、カメラのシャッターを押すのもためらわれるすさまじさ。避難所へ子どもたちへの玩具を届けられたが、ここで2か月も生活されてきたのかと思うと下がった頭をあげれなかつたそうです。ただ子ども達の明るい笑顔、元気にグラウンドを走り回る姿に救われたそうです。氏はその後も、千里山会の仲間やその他の仲間を声掛け、6月16日に第2弾として、ダンボール箱18個分の衣類・おもちゃを送られたそうです。